

# (株) センサ情報研究所 (SILC)

## 地球観測データ利用は実利用の時代へ

岩崎 晃 産総研 電力エネルギー研究部門 ((株) センサ情報研究所 取締役)  
 浦井 稔 産総研 地球科学情報研究部門 ((株) センサ情報研究所 取締役)

### SILCの目指すもの

人工衛星による宇宙からのリモートセンシング技術を利用して地球観測が始まってからすでに30年以上が経過した。1972年に1号が打ち上げられたランドサット衛星はほぼ30年にわたって有用なデータを撮り続け、農業や鉱業などさまざまな分野で使われている。また、フランスの開発したスポット衛星は地球観測データを商業ベースで取得、配布している。

日本においても、MOS(海洋観測衛星)、JERS-1(陸地観測衛星)が打ち上げられ、地球観測データを取得してきた。光学センサASTERは通商産業省(現 経済産業省)で開発され、地球観測衛星Terraに搭載され1999年12月に米国NASAによって打ち上げられて、現在も稼働している。このほか、いくつかの地球観測衛星の打ち上げが予定されている。グローバルな環境問題への関心が高

まる中、人工衛星からの地球観測データは実利用の時代に入ってきたといえる。

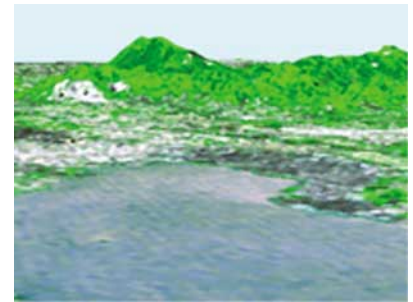
### 開発技術

産総研は通産省工業技術院時代から20年以上にわたってJERS-1ならびにASTERの開発に関わり、観測機器開発、データ利用技術開発に中心的な役割を果たしてきた。特に1989年から本格的な開発が始まったASTERセンサにはハードウェアおよびソフトウェアの両面より多くの知恵が集約されている。これらの技術シーズを活用すべく、産総研より以下の技術移転を受けている。

- (1) 地球観測データの幾何学的精度を向上させるための補正技術
  - (2) 火山情報ベースに基づいたデータ情報抽出技術
  - (3) スペクトルデータの補正技術
- とりわけ、ASTERデータは可視光から熱赤外まで14の波長帯で観測するとともに、立体視機能による

標高データが付随するため、得られたデータを3次元空間で利用することが可能である。このような新世紀のセンサを駆使することで、さまざまな分野で新たな知見が得られることになるであろう。

今後、防災や環境などの分野での地球観測データ利用を加速すべく、当社では技術シーズを活用するとともに、利用者の要望に基づいて新しいデータ解析技術の開発を進めていく予定である。



●霞ヶ浦からみた筑波山(ASTERデータより作製):データは資源環境観測解析センターより

### ●会社概要

社名: 株式会社センサ情報研究所  
 会社設立: 平成14年4月  
 資本金: 1000万円  
 代表取締役社長: 藤定廣幸  
 本社: 茨城県つくば市天久保2-16-7  
 コーポつくば107号

TEL: 0298-60-8590  
 FAX: 0298-60-8583  
 E-mail: info@silc.co.jp  
 URL: http://www.silc.co.jp/

### ●主な事業内容

- (1) 地球観測データの利用・解析に関するコンサルティング
- (2) 地球観測システムマネジメント支援
- (3) 地球観測データの販売
- (4) 地球観測データの解析・加工受託
- (5) 地球観測データの解析ソフトウェアの開発と販売
- (6) 地球観測データの利用に関する研修の実施